

九鬼山～馬立～御前～神楽山

齊藤整紀

- 平成 27 年 3 月 15 日(日)曇り時々晴
- メンバー 西正子(CL)、明彦、島崎、
斎藤亘、白井、齊藤整紀
- コースタイム 禾生駅 9:00→(杉山
新道)→10:40 九鬼山 970m(昼食)11:20
→12:40 馬立山 797m→13:20 御前山 730
m→13:40 神楽山 674m→14:20 猿橋駅

先週の白馬山行の途中、拇池・天狗原付近で、西正子さんからメールを頂いていたが、前夜に飲み会が入ったため、参加表明が遅れた。

朝、アルコールは残るが、何とか起き出し、予定の 6 時発の電車に乗った。曇りがちなが、雨の心配はなさそうである。

高尾駅で会長と白井さんに合流、富士急線直通の河口湖行に乗った。禾生駅で西ご夫妻と島崎さんが待っていた。富士急は富士山が世界遺産になり観光客が増えたこともあり、2 億円以上投資し、昨日から IC カードが使えるようになったそうで便利になった。その為先月の秩父鉄道の長瀨駅の苦い思いはせずに済んだ。

九鬼山塊は、意外にも、正子さん以外は皆、初めてである。まず主峰・九鬼山は、3 回経験のある正さんは、急なコースを避け、なだらかで登りやすい杉山新道から入った。結局、この径が本日、最も歩き易かったようだ。

山頂手前に富士山の絶景ポイントがあ

り、力強い富嶽を楽しんだ。しかし下りはガレて、堪える。途中、穏やかな高台を選んで昼食を摂って、馬立(まだて)山までの長いアップダウンに挑んだ。

札金峠を過ぎて、なだらかな尾根を登りきった所が馬立山のピークである。更に沢井沢ノ頭を過ぎると、大きな岩の尾根を南側に巻いて、切り立った岩の御前山に至る。クライミングも出来そうである。展望抜群の岩峰は 730m 峰とは思われない迫力がある。記念撮影後、風が強いため、早めに降りる。急斜面を凌いで、間もなく最後の神楽山に到着した。

しかし、ここからの下りは霜溶けの滑りも加わり、急勾配で侮れない厳しさがあった。結局、1000m 足らずの 4 峰を辿るハイキングであったが、急勾配のアップダウンの連続で休憩を取りながらの 5 時間のハイキングながら、結構、体を使った。斎藤亘会長は、スキー以外では今回がシーズン初めての山行とか、また島崎さんはスキー三昧であったため歩くのは辛そうであった。ちなみに私は、先週の拇池の雪山よりも今回のハイクの方が足のハリなど厳しいものがあった。

反省会は国分寺のいつもの居酒屋(午後 2 時からやっている)に流れたが、久しぶりに会の主要メンバーが会したこともあり、4 時から 7 時まで 3 時間程盛り上がった。(了)